

## 1.はじめに

当法人は、1994年7月8日に設立して以来、どんな障害のある方も生き生きと暮らしていく地域社会の実現を目指し、障害のある方自身とその家族、職員、地域の人々が力を合わせて活動することを理念に掲げてきました。本年度法人設立30周年を迎えるにあたり、「他の者との平等」をめざし、障害を医学モデルから社会モデル、さらには人権モデルでとらえなおす障害者権条約の理念に深く共鳴し、当法人の仲間と、ここに集う多様な人たちの人権と尊厳を守るため、よりいっそうの協働をすすめていきます。

あらためて私たちがめざすもの、(ミッション)、描く社会の姿(ビジョン)、実現にむけて大切にする行動指針(フィロソフィー)を確かめ、障害のある人をはじめ多様な生きづらさを抱える人たちが安心して暮らすことができるよう、日々の実践、運動、経営に取り組んでいきます。

なお当法人では利用者を「仲間」と呼んでいます。本報告書においても以下同様の表記をします。

## 2. いぶき福祉会の目指すすがた

2022年度にいぶき福祉会のビジョン実現のための道のりを描きました。2023年度は、それにもとづいて取り組みました。その概要は以下のとおりです。

### (1) ビジョン

#### <長期ビジョン>めざすもの

どんな障害のある方も生き生きと暮らしていく地域社会の実現

障害のある方だけでなく、誰もが支え合いながら人間らしく安心して暮らせる寛容な社会=ケアリング・ソサエティの実現

#### <中期ビジョン> 2030年度までにかなえる4つのすがた

仲間の暮らし：地域でやりたい暮らしを選び、いきいきと幸福に暮らしている。

仲間の仕事：自分の役割に誇りを持ち、給料と年金で楽しく暮らしている。

職員のすがた：協働を楽しみ、ケアを通じて、生産性や効率だけではない価値を大切にし、誇りを持って働いている。

地域のすがた：障害に関係なく、多様な人が地域の中で認め合う存在となり、幸福を感じている。

#### <初期ビジョン> 毎年繰り返し確かめていくこと

いぶきに関わる人たちのソーシャル・キャピタルが豊かになっている。

### (2)組織体制

以下のとおり、西部・北部2つの事業部において以下の事業を実施し、法人本部で全体の円滑な運営を支えました。

#### <西部事業部>

いぶき（生活介護20名 活動グループ：ソレイユ・あかね 年間稼働率88.9%）

いぶきゆめひろ共同作業所（生活介護 20 名 83.5% 就労継続支援 B 型 20 名 32.5% 活動グループ：セリング・ライラック・リラ・フルーツ・ムスカリ・リサイクル）

サテライトいぶき（生活介護 20 名 活動グループ：ハロー・シェル 90.6%）

ごんのしま作業所（生活介護 20 名 活動グループ：コスモス・パレット 91.2%）

しま・ホーム（共同生活援助 6 名）

さぎやま・ホーム（共同生活援助 11 名 居住ユニット：さぎやま・だいふく）

ショートステイセンターいぶき（短期入所 2 名 年間稼働率 45.2%）

ヘルパーステーションねこのて（居宅介護）

いぶき（計画相談支援・障害児相談支援）

<北部事業部>

第二いぶき（生活介護 20 名 活動グループ：いろどり 88.9%）

第二いぶき2（生活介護 20 名 活動グループ：にじ・アトリエ 97.5%）

第二いぶき B（生活介護 20 名 活動グループ：こらぼ 96.7%）

パストラルいぶき（共同生活援助 31 名 居住ユニット：なでしこ・きずな・ひだまり・こまち・つばさ）

パストラルいぶき（短期入所 4 名 年間稼働率 22.9%）

<法人本部・協働支援>

総務、経理、いぶきデザイン室、いぶきファミリー事務局

### (3)活動の柱

それぞれの事業部・事業で仲間の願いを中心とした日中活動並びに暮らしの場づくりの実践に取り組みました。

実践の柱は、以下の3つです。

①いのちと暮らしを守る（グループホーム、ショートステイ、相談支援を中心に）

【地域の中で、仲間とその家族ひとりひとりの安心をつくること】

約4年にわたり神経をすり減らした新型コロナは感染症5類に変更されましたが、引き続き関係者の安全と感染拡大防止にむけて最大限の対応を進めました。仲間にも家族にも職員にも心身に大きな負荷がかかりますが、今後も必要な感染対策、仲間の生活の質の維持、職員の安全な労働環境の確保など引き続き努力します。また分断をうまないための、説明、対話、相互理解、信頼構築に取り組みます。コロナ禍では制約されることが多かったグループホーム入居者の外出や余暇活動は少しずつ回復しています。注意を払いながら継続していきます。

仲間やその家族から強い要望があるグループホームの新設についての進展はありません。最大の理由は深刻な職員採用難です。賃貸グループホームの老朽化や入居する方の高齢化にともなうADL低下への対応も必要になっています。引き続き検討をします。ショートステイの稼働も職員体制で抑制を余儀なくされています。

2020年度の「いぶき寄り添いひろがるプロジェクト」を皮切りに、ガバメントクラウドファンディングも活用しながら暮らしの基盤づくりに取り組んできましたが、特に2021年度の「親なきあととのエンディングノートプロジェクト」の社会への共感とインパクトは大きく、2023年度は親なきあと問題への挑戦第2章としてオンラインのエンディングノートを提案。141人から2,336,000円の支援があり、2024年に事業を実施します。

なお、2022年度にガバメントクラウドファンディングを実施した「福祉をまなび、地域をつなぐ、声なき声の伝えかた講座」を2023年度に事業実施。コロナで途絶えていた小学生や大学生の現場訪問が復活しています。同様にパストラルいぶきでは防災拠点を生かし、2021年度、2022年度に地域と連携した防災・減災イベント「第二い

ぶき防災デー」を発展させ、2023年度は「第二いぶきハッピーすまいるフェスティバル」を開催しました。また

BCP(災害等の緊急事態発生時の事業継続計画)を岐阜大学の学生と協働して作成しました。

相談支援部門では、ひとりひとりのニーズに丁寧に向き合い、法人内外の情勢に対処しながら必要な支援で生活をささえることに努めました。前年度より1名少なく154件の契約者がおります。グループホームの不正運営の報道に不安をおぼえる入居者や家族との相談も多くありました。

## ②思いを育み、役割を作る(生活介護、就労継続支援を中心に)

【コミュニティ(社会関係の網の目)の中で、ひとりひとりがかけがえのない存在となる役割をつくること】

仲間の仕事としては食品加工(製菓、ジャム)から農業(野菜、茶)、クラフト(紙、フェルト)・草木染、アート活動、販売まで幅広く取り組みました。定期販売「tabita便」も順調に顧客をふやしています。これらの活動では、モノをつくるだけではない多様な役割が生まれます。素材を集めたり、絵や文字を描いたり、手渡す箱や袋をつくり、伝えたり、届けたり、室内作業から屋外作業まで、多様な役割を、ひとりひとりの仕事につなげていきながら、仲間が社会関係の網の目の中でかけがえのない存在となる支援を積み上げています。

岐阜NPOセンターの孤独・孤立対策官民連携事業費補助金をうけ、「岐阜のちいさな隣人祭り」を5回開催、またコープ共済地域ささえ合い助成をうけ「協働ステーションではじめる地域の大切な記憶の共同学習」を5回開催、「にっこりえんがわマルシェ」も毎月開催し2024年6月で23回目をむかえます。これらの助成では仲間の人物費も計上しており、地域とつながる活動の中で、仲間の役割と仕事がうまれています。また岐阜県障がい者芸術文化支援センターTASCぎふの「手と精神」展にも協働参加し、仲間の手の表現がひろく紹介されたほか、仲間の絵を使用したチョコレートが開発販売され、高い評価を受けました。

昨年度金賞銀賞を受賞した世界マーマレードアワード日本大会では引き続きプロ部門で銀賞銅賞に入賞しました。岐阜市リサイクルセンターのペットボトルの異物除去・選別業務も継続し、関わる仲間も増えています。

なお、仲間の給料の財源となる就労支援事業の売り上げは35,535千円(前年度比▲1,257千円)。製菓の受注減の影響があります。仲間の給料の変動はありません。

## ③つながり、価値を創る

【社会の中で、当法人の関係の網の目を紡ぐ】

【地域の中で、人間回復につながる共同学習と協働の場をつくる】

法人の公益的な取り組みを積極的に展開しました。上述した「岐阜のちいさな隣人祭り」は共食をテーマに、いぶき前のオープンスペースを使って地域の人たちと食材を持ち寄り、一緒に料理し食事をしながら交流するもの。住民の孤立化を解消し、コミュニティの絆の強化を目的に1999年にパリで始まった活動をモデルにしています。10月から毎月計5回を開催しました。準備や地域の人へのお声かけや案内も仲間たちが関わり、日常的に地域をつなぐ取り組みになっています。

「協働ステーションではじめる地域の大切な記憶の共同学習」はコープぎふとの協働事業です。学習会だけでなく、その素材となる映像の取材作成も仲間たちが取り組み、平和、国際交流、防災を地域の人たちと学びあいました。これも2ヶ月に一度、計5回開催しています。「にっこりえんがわマルシェ」は3年目になり地域行事として根づいてきました。毎月の瓦版は近隣3小学校で全員配布され、マルシェに参加した小学生や幼稚園児、平日にも立ち寄り親子で仲間たちと話す風景がうまれています。

第二いぶきの「ハッピーすまいるフェスティバル」には、中学生や企業のボランティアも復活し、仲間もワークショップやお店で地域住民や保護者をむかえていました。防災拠点としてに認知にもつながっています。

これら以外にも地域交流イベントの「ぎふ、ハッピーウォーク」、「コミュニティ・ガーデンプロジェクト」、「ハレバレごはんプロジェクト」、「ぎふ、ハッピーハッピープロジェクト」なども、地域住民が参加でき、地域団体と協働できるプロジェクトとして前年に引き続き実施しました。

いぶきふれあいまつりの終了から5年になりますが、大きな交流イベントではなく、小さなタッチポイントをたくさん作っていく形式に変えながら、さらに仲間が人をつなぐ役割を担うようになっています。

①②を含めたこれらの活動を発信し、ひろく「オールいぶき」として双方向・網の目状にコミュニティの人たちを結ぶツールである会報「夢よもっとひろがれ」(現在1500部発行)を4月と10月に発行、ホームページ「いぶきの小窓」、ネットショップ「いぶきスタイル」「えんがわ marche」、メディアサイト「えんがわスケッチ」を、社会とつながる窓口として充実を図りました。また新たにインターネットラジオ「いぶきのえんがわラジオ」もスタートさせました。年次報告書「夢よもっとひろがれ2022」も発行しています。

2023年度よりいぶきの関係の網の目を可視化する指標として「ソーシャル・キャピタル」を重視しています。これは地域や社会の中で、信頼し、お互い様と思い合える豊かなつながりを育む大切さのことです。①社会的ネットワーク②相互信頼③互恵性の規範の3つから構成されます。その進展をたしかめるために役職員、仲間の家族、いぶき福祉社会会員へ「地域のつながりを確かめるアンケート」を実施しました。詳細は年次報告書に公表しています。今後も3年おきて継続しつつ、多様なエピソードを編集し、お互い様の関係づくりを進めます。

### 3. 法人の基盤強化における

事業のさらなる充実にむけ、法人の基盤強化にも継続的に取り組みます。

#### (1) いぶきの権利宣言

仲間、職員をはじめいぶきにかかわる多様な人たちの人権と尊厳についての対話と学習を重ねました。障害者権利条約の学習も他法人と協力した一般講座と法人役員・管理職合同の学習会を開催しました。「いぶきの権利宣言」は法人設立30周年事業のなか継続して作成します。

#### (2) 協働をつくる

法人内外の多様な人たちの間で「協働」を意識した関係づくりをすすめました。いぶきの活動を支えるのは、何よりいぶき福祉社会会員「いぶきファミリー」を中心に、法人の理念と活動に共感し協働する市民の存在です。いぶきファミリーの個人会員は753名(前年度比較+15名)、うち共感会員33名です。団体会員は28団体になります。また事務局を担い、他法人と連携して寄付つきプロジェクトの展開を進める「ぎふ、ハッピーハッピープロジェクト」では、あらたに当法人のパートナー企業が2団体がふえ9団体となり、プロジェクト全体としては4福祉団体、20企業と広がってきています。

全国の共同作業所の連絡会議では岐阜支部事務局、全国就労支援部会員の役割を果たし、全国社会就労センター協議会、岐阜県障害福祉事業所連絡会、岐阜市社会福祉法人連絡会などの福祉団体とも連携も深めています。

#### (3) ひとづくり

##### ①協働責任者の体制づくり

2022年度から法人の管理職を8名体制とし、法人のリスクマネジメントと法人の将来を担う人材育成に取り組んでいます。引き続き管理業務にとどまらず、「職員」「仲間」「地域や連携パートナー」「その他の多様な人たち」を縦横斜めにつなぎ、多様な協働を創り育む「協働責任者」としての役割を担います。

管理職・サービス管理責任者の女性比率を30%以上とすることは継続課題です。あらためて女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画にもとづきすすめます。

## ②職員採用

2023年度は、年間を通じて法人が必要と考える職員体制を確保することができませんでした。また年度末にかけて退職が相次ぎ、支援体制の維持に苦労をしました。新年度にむけてなんとか体制を整えるに至りましたが、24時間365日の支援の必要性の増加、働きやすさ改革の進展による補強と求人難などは引き続きの課題です。  
**在籍職員からの紹介制度の導入、新卒初任給の改訂、日勤限定の常勤雇用の導入などを進めました。**外国人労働者の受け入れの検討もしましたが採用はせず研究を継続します。

## ③働きやすい職場づくり

2023年度は、常勤職員66名、嘱託・定時職員115名、総勢181名(2023年4月1日現在)で始まりました。**年間を通じて常勤2名分を満たすことができませんでした。障害者雇用率は2.02%(2024年6月1日現在)で法定雇用率(2.50%)の達成が急務です。**心身の健康、育児・介護等の環境も多様です。多様な職員が多様な役割を担い、ひとりひとりが大切にされていると感じられ、法人の職員であることに安心と誇りをもてる職場づくりに努めます。

多面評価の本格導入を含め、常勤職員の**人事評価の見直しは着手できず次年度の重要課題**となります。特に評価者の心理的、時間的負担の改善が課題です。年2回の職員アンケートのほか、小集団による対話の場、上長との定期懇談も継続しています。協働責任者が率先して対話の文化を育み、職員とともに風通しのよい組織風土づくりに取り組み、さらに民主的な法人運営をめざします。

**2024年度10月からは定時職員の社会保険の加入義務が義務付けされることにともない、定時職員へのヒアリングも実施し、就労環境の整備を進めています。**国の**処遇改善加算を利用し年度末において常勤職員5000円／月、定時職員20円／時の昇給をしています。**

## ④共同学習プログラム

障害者権利条約、支援の専門性向上、虐待防止、ハラスメント防止など多様なテーマについて、職員同士やいぶきを外から支えつながる人たちと学び合う講座を年間を通じて開催しました。オンデマンドによる個人学習と小集団で学びを深めるダイアログを組み合わせています。特に**8月に開催した「防災と地域のつながり」の学習会は宮城県山元町からNPO法人ポラリス代表の田口さんお招きし、仲間と職員、地域、保護者ともに学ぶ機会となりました。**

## (4) 経営基盤の強化

### ①多様な財源の確保

法人理念の実現にむけ、さらなる多様な知見を結集した理事会の運営に努めます。経営の安定のためには多様な財源の確保が不可欠です。既存の福祉事業の再編や新規事業の準備も柔軟にすすめながら、寄付、クラウドファンディング、法人会員の拡大、各種協賛など、協働と資金づくりの活動(総称「ファンドレイジング」)も、引き続き重点的に取り組みました。

クラウドファンディングについては財源確保だけではなく、いぶきのファンづくりを重視しています。障害福祉に馴染みのない人たちにとって貴重な入り口のひとつであった「ねこの約束 JR 岐阜駅店」が閉店して 2 年がたちました。仲間、職員、保護者、地域のみなさんから再開の要望も強かったため、仲間の社会参加の場、地域の人たちが集い、ほっとできる場所、工賃アップにつながる商品の場として再開することにしました。その財源確保と多様な人の関わりしろとするため、2024 年 1 月よりクラウドファンディングを実施。275 人から 3,494,000 万円の寄付があつまりました。これを活用しいぶきゆめひろ共同作業所(日光町の家)の一角を改修し、新しい拠点「ほとり」を 2024 年 7 月にオープンします。

## ②利用率の安定改善

ここ数年、定員充足しきれていない事業があるほか、新型コロナへの対応、他法人事業所との併用利用などにより利用率の低下がみられます。また亡くなったり施設入所する方も増え、その場合の充足は翌年度まで留保しています。5類移行にともない、新型コロナで事業を休止(閉所)した場合の事業収入を保障するしくみはなくなっています。利用率の充足は経営安定には欠かせません。引き続き意識して運営します。従来より利用率改善を強調しきることで、仲間の体調管理や家庭の送迎負担増に影響がでることのないよう努めています。その一方で、仲間にとて通いたくなるような充実した活動のあり方、職員や仲間同士の信頼関係、送迎等への配慮などはさらに進めています。経営と実践の両輪をみきわめた運営につとめます。

2023 年度は閏年により 256 日を開所しました。制度上の最大開所可能日数(月日数-8、年間 269 日)にはまだ余裕がありますが、職員の労働環境も考慮しながら、今後適切な運営を検討していきます。

## 4.まとめ

2023 年度は、30 周年という大きな節目を前に、仲間の日々の活動を通じて地域社会とのつながりをさらに深めることに注力しました。仲間たちが地域の中で新しい役割を担い、その活動が地域との結びつきを強めることで、法人の経営基盤を支える関係も豊かに、また法人の採用活動や人材育成にもプラスの影響を与えると考えています。

いぶきの仲間たちもその保護者の方々も、年齢を重ねるにつれ抱える課題が変化してきています。そうした変化に柔軟に対応しながら、一人ひとりの仲間の営みと保護者の声と職員の実践が社会を変革する原動力になると信じています。効率や生産性の追求だけではない、ケアそのものに価値があることを示す具体的なモデルを作り、多様な人の参加し学びを深めていくことがいぶきの役割です。30 年のあゆみの中で大切にしてきたものを守りつつ、これからへの未来に向けた対話と創造を重ねながら、感謝の気持ちを忘れずに歩みを進めています。